

1	池谷・入山モデル作り事業
1－1	山清水米直販
・平成 29 年産米 山清水米の全生産者が新潟県の「特別栽培米」の認証を取得し、和日米会様の「限界集落応援プロジェクト（郷プロジェクト）」に 100 俵（6,000kg）、食と農を考える飛渡の会に 224.5 俵(13,470kg)出荷しました。一般販売分としては、「山清水米」6471.7kg , 「超特選 農薬・化学肥料不使用『山清水米』はざ架け米」（以下はざ架け米）478kg を出荷しました。 ・平成 30 年産米 農民運動全国連合会に 98 俵(5,880kg)、食と農を考える飛渡の会に 52.5 俵(3,150kg)出荷致しました。一般配売分としては 3 月末時点の発送済と予約分で 6160.55kg、はざ架け米 347kg（平成 30 年 10 月中に予約分で完売）の販売量となっています。平成 30 年産米より東京のデイサービスへ定期的に配送させていただくことになりました。	
1－2	農業生産
2018 年度は田んぼの面積がさらに増え、3 町 8 反 2 畝の田んぼを耕作することとなりました。収量はこれまでで過去最低となり、大赤字となってしまいました。原因は苗づくりのところから上手くできず、植え付けの密度も少なかった事と、夏は 1 ヶ月間雨が降らず水不足となり生育に影響が出た事です。 ライスセンター建設について国の補助金を活用しようと事務的な手続きを進めていましたが、県からの規制が厳しく、こちらの思い描く施設が作れないと判断し、最終的には補助金の活用はしない事とし、建設を翌年度にずらす事にしました。 米以外の作物としては、ニンニク・サツマイモ・ポップコーン・ジャガイモを作付けしました。	
1－3	加工品開発・販売
山清水米白がゆは東京・兵庫の神社様から継続して注文いただいております。注文量・回数も増加しています。今後は更に販路を拡大していきたいと考えています。	
1－4	体験交流
2018 年度は 9 回の体験イベントを開催し、のべ参加人数は 92 名となりました。交流人口は 600 名でした。新しい試みとして、BBQ イベントを 3 回開催しました。ジビエ・妻有ポークと地ビールの組合せが好評でした。また、冬にはかまくらでかき氷を食べるイベントを開催しました。参加者は残念ながら 3 人でしたが、かまくらを作って火照った状態でのかき氷は予想以上に良く、今後継続していきたいと思います。また、6 団体 201 名の団体受入を行いました。「やまんなかマルシェ」の会場として池谷分校を提供し、150 人が来場しました。 2018 年度から棚田オーナー制「山清水米みんなの棚田」を始めました。初年度は、特別栽培米 10 人 10 口、無農薬米 4 人 5 口でした。	
2	地域おこし応援事業
2－1	視察・講演・研修会
・視察 新潟県内・県外から 10 団体 110 名の方にお越し頂きました。 ・講演 31 会場に訪れ、1242 名の方に聞いて頂きました。	

2-2	地域おこし応援活動
1) 2017 年度に新潟県の「地域の話し合い促進事業」でワークショップを行った魚沼市守門地域の地域づくりに関して当年度も引き続き支援の依頼を受け、年間 10 回訪問して、地域づくりのサポートを行いました。その結果、元気すもんプロジェクトとして直売所のプレオープンが形になりました。また、魚沼市の入広瀬でも支援の依頼を受け、年間 6 回訪問してワークショップを行いました。 2) 新潟県内の地域づくり研究会で地域づくりコーディネーター育成 OJT 研修を行いました。受講者 2 名には入広瀬のワークショップに同席頂き、地域づくりの現場に立ち会ってもらい、受講者からは座学だけでは学べない地域づくりのコーディネートについて実践的に学んでももらいました。 3) 行政職員の合宿を池谷分校で行い、新潟県地域政策課と群馬県下仁田町の方々を受け入れました。 4) 2018 年 11 月 12 日に、農文協から「奇跡の集落～廃村寸前『限界集落』からの再生」（多田朋孔・NPO 地域おこし著）が出版されました。	
2-3	十日町市への移住促進
1) 12 月 16 日に新潟県地域政策課から依頼を受け、にいがた UI ターンフェアで新潟県の地域おこし協力隊ブースの相談窓口業務とトークセッションでの登壇を行いました。 2) 十日町市内の企業の求人情報を 1 社さとナビに掲載し、企業パンフレット制作支援（社員インタビュー）を 1 社行いました。 3) 昨年度に続き、十日町市への移住・交流情報を掲載したホームページ「さとナビ」の運営を行いました。 さとナビ : http://www.tsukurou-tokamachi.jp/ さとナビの運営は、2019 年度より十日町市が行うことになりました。 4) 十日町市内 2 地域に、2 名の短期インターンシップ受入のコーディネートを行いました。 インターン生は 20 代の若者で、2 名とも冬季間だったため、活動内容は主に雪かき、受入れ地域によって雪下人参の出荷作業手伝いなどを経験し、移住者への聞き取りを行いました。活動レポートを「さとナビ」で情報発信しました。 【受入地域・人数】 ・東下組の復興と将来を考える会（1 名） ・池谷集落（1 名）	